

# 平成 30 年度南予地方局予算の実施状況 (H31.3.31 現在)

1 予算事項名 高級菓子用果樹産地化推進事業費

2 事業期間 平成 26 年度～平成 30 年度

3 所 管 産業経済部産業振興課産地育成室

## 4 事業概要

宇和島市、松野町、鬼北町及び JA えひめ南は、(株)源吉兆庵と農林水産物の生産及び安定供給に関する協定を締結し、高級和菓子の原材料となるくりやもも、びわ、かきなどの高級菓子用果樹の産地化を早急に図る必要がある。そこで、植栽した苗木の早期成園化をすすめるとともに、省力化に向けた技術実証などを行う。また新たな高級菓子用果樹の現地適応性実証や新たな用途開拓の推進を図り、生産者の所得向上に繋げる。

	平成 30 年度
予算額	1,212 千円

## 5 30 年度の事業実施状況

(1) 高級菓子用果樹の省力的安定生産技術の推進

① 省力生産技術実証 もも・びわ

○防蛾灯によるヤガ被害の軽減効果の実証

実施日:7/18～8/3

防蛾灯(レピガード)を設置することで、ヤガの被害は大幅に軽減できた。

調査果実 396 個中、被害果は 34 個で、被害率は 8.6%。



ももの防蛾灯設置【5-(1)-①】

○びわの一斉収穫による省力化実証

実施日:6/5、6/8

果実の着色を確認しながら収穫する方法から、収穫日を決めて一斉収穫することで出荷量は減少するものの 1kg 当りの作業時間を 80.1% に短縮でき、コスト低減につながることを実証した。

② 低樹高栽培による省力化技術実証(くり 9～10 月)

樹幹間隔を十分に取り、低樹高に抑えて日射条件を良くすることで、大玉、多収、省力化を実証。収量 1 樹当たり 13kg、2L 以上 93%、良品率 80%。

③ 早期成園化技術実証(8 月～)

桃の土壌改良と樹形改良の実証圃を設置。

ユンボを用いた深耕(たこつぼ方式)と有機物の施用で、土壌の物理性を改善。

2 本主枝 Y 字樹形に仕立てることで、樹勢の強化や作業性を改善。



ももの Y 字樹形【5-(1)-③】

#### ④ かきの適正着果量実証

##### 市田柿の摘果実証

通常の着果(結果枝あたり1~2果)と多着果(結果枝あたり2~3果)の実肥大を調査した。今年の場合、果実の大きさに明確な違いは見られなかった。

#### (2) 新たな高級菓子用果実の現地適応性実証(おうとう(さくらんぼ)、西洋なし、もも)

##### ①地域に適応した品目の確認。

おうとうは結実なし。西洋なしは台風で落果し、収量・品質の確認には至らなかった。

#### (3) 新たな用途開拓の推進

##### ①加工品等の開発支援

市田柿の加工品を産技研が試作。ドライフルーツ、チップスなどを作成した。

##### ②用途開拓推進検討会

12月5日に開催し、関係機関が市田柿の加工品(試作品)について試食し、販売の可能性を協議した。



用途開拓推進検討会【5-(3)-②】

#### (4) 高級菓子用果樹産地化推進

##### ①生産振興会議/

生産振興会議を、  
くり・もも部門(2回)  
かき・びわ部門(3回)

##### ②早期成園化指導

市田柿栽培講習会(5回)  
びわ栽培講習会(2回)  
もも栽培講習会(7回)  
くり栽培講習会(1回)



市田柿摘果講習会【5-(4)-②】



市田柿初出荷【5-(4)-①】